

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 2 月 14 日

事業所名 にっこりバンビノ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用定員に対して、適切なスペースを確保している。 KY(危険予知)を行い、家具のレイアウトに配慮している。 季節のイベントに合った装飾を工夫して行っている。	建物の構造上、広いワンフロアをパーティションで仕切っている仕様であるため、集中して課題に取り組む際に改善があってもよいかと考える。
	2	職員の配置数は適切である	○			次月のプログラム作成と利用者数の把握を早めに実施することにより、法令で定められた人員の配置に繋げている。	強度行動障害児の身体的成長に伴い、マンツーマンでの対応が増えているため、今後は増員も視野に入れている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			子どもの態様に応じている。	身体に配慮し段差を無くしたり、手すりを設置する等の工夫はしているが、今後も改善点を見出し是正する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			ミーティングには書記を立てて文書化し、やむを得ず欠席した職員にも周知できるようにしている。 ミーティングに欠席した職員には、文書化した記録を基に補足として口頭での説明も行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者向けアンケートを集計し評価を真摯に受け止め、要望や評価の低いところに関して月1回以上の全体ミーティングで検討を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			自己評価の結果は、事業所のホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	現在は行っていない。	今後必要であれば検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			県主催「虐待防止」研修は可能な限り1人以上参加している。 その他にも様々な研修に於いて学んだ内容(支援手順書の作成、障害に対する理解など)等もミーティングで職員(パート含む)全員に周知し、実務に取り入れ実施する。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			放課後等デイサービス計画やモニタリング作成時には事業所内のミーティングの中で職員から該当する児童の情報を収集し、個別支援計画書やモニタリングの案に目を通してもらっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			フェイスシート、アセスメントシートとして事業所独自の基本情報シート①、②を作成している。	基本情報として保護者から収集した情報ではあるが、電話番号 メールアドレス 住所といった個人情報の変更や、子どもの成長に伴う内容の変更がある場合を想定し、一年に一度更新をする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員間で意見を出し合い、活動プログラムを決定している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			日頃から子どもの特性に目を向け、これまでの応用と新たな発想の観点から活動予定を組み、改善の余地がある場合は実行している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			職員間で話し合い、それぞれに合った課題を設定し支援している。	課題として取り組んでいる事が1パターンとなり、恒常化しないために療育に関する用品を増やしていく。 職員の専門知識を養い、より良い療育支援が提供できるように、引き続き講習への参加やそれぞれが資格取得に励むことが出来る環境を整える。

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の特性に応じた個別活動と、グループヨガやダンス、複数人で行うねんど教室など様々な集団活動の中で子どもの状況に合わせて活動参加が出来るよう計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援前にはミーティングを行い、直近の様子から子どもの情報を共有し、その日の担当を決めている。	来期より支援前後ミーティングの記録を作成し、職員間で情報共有する事が決定されている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後には、勤務した職員全員でその日に起きたことや、気付いた点などを詳しく共有している。支援終了後、送迎などの事情により職員全員が揃ってのミーティング実施が難しいため、ミーティングに参加できない職員は、日報の申し送り欄で内容を確認している。	来期より支援前後ミーティングの記録を作成し、職員間で情報共有する事が決定されている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		HUGシステムを活用しており、サービス提供記録及び、保護者との情報共有や日々の記録として使用している。支援内容を日々のミーティングで共有し、日報の申し送りと一緒に検証・改善を繰り返し実施している。	来期より実施が決定している支援前後ミーティングの記録も新しい材料として、より良い検証・改善が見込まれる。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		最低でも半年に1度のモニタリングを実施し、保護者と共有し目標設定の適正やニーズを見直すことで、必要であれば是正し、改善に取り組んでいる。	強度行動障害児は、よりきめ細かな支援が必要であるため保護者同意のもと、面談やモニタリングをこれまでより短いスパンで実施し、明確な目標設定を行うことで、的確な支援を実施したいと考えている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドライン 基本活動ア～エを複数組み合わせ、工夫して支援を行っている	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		サービス担当者会議に最もふさわしい者が会議参加の準備をしている。	実際のところ会議はほとんど開かれていない。電話等による相談支援専門員からの問い合わせには随時対応している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校から当デイへの行事予定等の連絡はほとんどないため、サービス提供記録でデイと保護者の情報共有を実施するとともに、学校お迎え時にデイから担当教諭に確認する。保護者から学校の年間カレンダーをコピーさせてもらうこともある。 当デイサービスで独自に年1回実施してきた学校参観が、昨年は実施出来なかったが、今年度は学校と連携を図り、時短ではあったものの学校参観を実施することが出来た。併せて担当教諭と文書で情報交換を行い、学校⇄保護者⇄デイの連携をより深められた。	今後、学校参観をより意義のあるものとするため、保護者の許可を受け、授業として専門職(PT,OT,ST)が取り組んでいるリハビリを見学出来るよう連携を図る。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在、医療的ケアを要する児童は居ない。医療的ケアの一部を自身でする児童は居るが、保護者からの依頼で見守り・声かけのみを実施している。	ここ数年児童発達支援のサービス利用者が居ない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	就学前の情報は保護者から聞き取りを行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		サービス移行の際は、これまでの支援内容など引継ぎを行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関が主催する研修に参加している。支援内容で疑問や不明点が発生した場合は、専門機関に直接問い合わせ助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	まだまだ感染症へのリスクが想定される中で、他児童との交流を控えることが保護者のニーズではないかと認識している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○	今後、参加を検討している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の送迎で直接顔を合わせる時間に、状況を共有している。サービス提供記録でも詳しい支援内容を共有している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者との面談や事業所での支援で気付いたことがあれば、その都度保護者に情報を共有し自宅で活かせるようアドバイスをしている。また、自宅でのお子さまの状況で困りごと等がある場合は、いつでも相談できる体制をとっている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		初回ご利用前に契約書を交わす際、事業重要事項説明書として丁寧に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者との連携はHUGシステム上でのやりとりをメインとしているが、気になることや相談があれば、その都度メールやLINE等でも随時交流できることを再度周知していく。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	現況として、利用される保護者に前もって質問したが、希望者は無かった。今後、希望者がある場合は開催も検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情の内容を正しく聞き取りし、日付や経緯について記録を残している。職員が内容を把握し、同じことを繰り返さないよう誠意をもって対応することが重要だと認識している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		HUGシステムを通して発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		職員(パート含む)・外部講師・介護体験の大学生には、児童の個人情報保護に関する留意点を予め説明し周知している。個人の顔が写っている写真は、HUGシステム内 個別のサービス提供記録で自身のお子様のみ公開している。	個人情報が記載されている書類に関しては、鍵付きの棚の中に入れて保存しているが、より強固な管理体制の構築も視野に入れている。

非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		お子さまの特性に配慮した伝達方法を実施している。 保護者との意思の疎通や情報伝達にも十分に配慮している。	視覚障害 聴覚障害に於いて、資格取得や研修を重ね、今以上に理解を深めたいと考えている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	国が定めた行動規制の緩和もあり、地域との交流を目的として近所の企業に協力を要請し、夏に育てたアサガオの種を配るイベントを試験的に実施した。 今期は介護体験の学生の受け入れを実施し、様々なプログラムの中で障害福祉についての理解を深めてもらうことが出来た。	国が定めた行動制限の緩和措置はあったものの、感染のリスクは現状も拭いきれないことから、学校の方針に目を向け、保護者の意見を聞くなど、協力をお願いして独自の判断とならないように情報共有を実施していく。 前期2年はコロナウイルス感染症拡大もあり、介護体験の学生を受け入れることが難しかったが介護体験の学生を受け入れることによって、現役介護系専門大学に通う学生ならではの視点や意見を聞くことで、職員も多くを学んだ。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		避難経路図や浸水時対応の計画書など、その都度最新の情報を保護者に提供し、各家庭に事前に配布した保護者ファイルに綴り込みを依頼する。	マニュアルを作成し、保護者ファイルとして配布を実施している。 少数ではあるが、保護者用評価表で「どちらともいえない」にチェックがあった。 重要事項であるため再度説明と確認が必要である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災、地震、水害など様々な非常事態を想定した避難訓練を活動に盛り込み、1年に2回設定している。反省点を次回に活かせるように、避難訓練時の記録を取っている。	項目38に同じく、少数ではあるが、保護者用評価表で「どちらともいえない」にチェックがあった。 今後はHUGシステムの活動記録にて、保護者へ避難訓練の報告を実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		県主催「虐待防止」研修は可能な限り1人以上参加している。 虐待防止委員会を設置し、職員一人ひとりが虐待防止への理解を深め、適切な対応を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		乗車時は安全面を最重要事項とし、組織的に慎重に検討決定し保護者に十分な説明を行った上、共通認識の元で体位保持ベルトを使用している。また、使用する児童はそれぞれの個別支援計画書に記載し保護者に説明した後、記名と押印をもらっている。	車内での安全確保について、体位保持ベルトは有効であるが、そればかりに頼るのではなく、他の方法が無い場合に考える事が大切である。 本来身体的に体位保持ベルトが必要ではない児童については、学校や他に通っているデイサービスでの状況を確認し、保護者へ十分に説明をした上で、別の方法を模索する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現在まで食物アレルギーを持つ子どもの利用が無い。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	ヒヤリハット案件はその都度グループラインでその内容を共有し、全体ミーティングの議題に挙げて協議している。	